

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和4年度)

施設の名称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者の名称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施設所管部課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	指定管理	(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成21年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設置年月	平成 3年 1月	
根拠条例等	サンクチュアリセンター条例	
設置目的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立し、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造するとともに県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくりを推進するため設置されました。	
施設の内容	敷地面積	3,850 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
	内 容	1階 829.87m ² (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム) 2階 563.62m ² (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開館(所)日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日, 土曜日, 1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開館(所)時間	午前9時00分 ~ 午後4時30分	
指定管理者が行う業務の範囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター管理業務 ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用 ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務の管理 ⑨施設の管理運営に関する環境配慮⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
開館(所)日数	300 日	292 日	303 日	101.0%	103.8%
延べ利用者数	30,000 人	31,153 人	29,915 人	99.7%	96.0%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。 3

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
	30,000 人	31,153 人	29,915 人	99.7%	96.0%
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
合 計	30,000 人	31,153 人	29,915 人	99.7%	96.0%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
県指定管理料	42,028	30,539	42,028	100.0%	137.6%
利用料金収入				-	-
その他				-	-
収入計 (a)	42,028	30,539	42,028	100.0%	137.6%

(2) 支出

人件費	20,532	19,538	20,373	99.2%	104.3%
施設管理費	21,496	11,043	21,230	98.8%	192.2%
事業運営費		0		-	-
その他		0	0	-	-
支出計 (b)	42,028	30,581	41,603	99.0%	136.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	-42	425	-	-1011.9%
前期繰越収支差額				-	-
次期繰越収支差額				-	-

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和4年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があるよう運営管理を行った。		A	仕様書に基づく各種報告に遅れが見られたものの、施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。	A
人員体制	正規	4人	非正規	5人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設及び設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目を浴びている。		S	各研究員が、伊豆沼・内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。	S
④自主事業の実施	別記2のとおり		自主事業は、コロナ過においても参加者から好評で、リポーターが多く参加している。		S	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、32回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	S
⑤利用者サービスの向上	厳しい予算の中、入館者のニーズに 대응べく、サンクチュアリセンターのパンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ました。また、情報の発信は、ホームページを常に更新、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースを毎月発行し活用、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報ははじめ調査研究など積極的に情報発信に努めた。 研修室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。少ない職員数で沼の保全対策からサンクチュアリセンターの運営までを行う当財団の役割は大変高く評価されている。		A	インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置を工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うまいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し、沼の四季にあわせた館内展示を工夫している。		A	来館者の意見を大切に、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。	A
⑦安全対策	毎年9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行っていたが、コロナウイルスの関係で中止となった。令和5年度は来館者に対して速やかに対応できるよう訓練の再開を行う。また、消防法で、定められている防火管理者等の有資格者を配置して、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。	A
⑧県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透させつつある。		A	各種の自主事業は、広く周知しており、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	令和4年度の情報公開の要請はなし。	A	実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり	上半期の入館者数は、新型コロナウイルス感染症による影響の中、上半期前半は前年度を上回っていたが、7月の大水害でハスが水没したため、7月から8月までの入館者数は、前年度より4,629人減となった。また、下半期は、1月、2月、3月に入館者数が前年度より増加したものの、上半期の入館者減が大きく影響し年度合計では、1,238人の減となり昨年入館者数の96%となった。	A	コロナ過において入館者が昨年度と比較して1,238人減少しているが、栗原市にある施設として、開館日数303日、1日の平均入館者数が約100人は、評価が高い。	A
⑪収支実績	上記「5. 施設利用実績」のとおり	経費削減を実施し、予算の範囲内での執行を行った。	A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。	A
⑫その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣・自然観察会や出前講座などの実施に積極的に対応した。	地域に密着した事業を展開するため、事業以外の取り組みも、重要視される。コロナ過ではあるが、環境への関心は高く、金成中学校などから伊豆沼・内沼出前講座の依頼があり、環境をテーマとした講話を行っている。今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。	S	他団体とも連携した事業が積極的に進められている。	S
総合評価		サンクチュアリセンターは展示施設の他、調査・研究及び沼の保全活動の拠点として、適切な管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全対策は、多くの県民から高い評価を得ている。	S	県の環境保全や自然再生対策の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	コロナ過及び7月の大雨の影響があった中でも、入館者が前年度の96%だったことは、自然環境の保全に対する県民の意識の高まりが感じられる。 令和5年度は、令和4年3月深夜に発生した福島沖を震源とする地震による2階の正面ガラスの修繕工事及びエアコン3機の交換工事が予定されており、早期工事完了に向け自然保護課と協議を行い最大限の支援・協力をを行う。	建物設備の老朽化が目立ってきている中で、福島県沖を震源とする地震により被害があり急がれるものから順次、修繕して行く。

別記1 【③運営業務(ソフト事業等)の実施】

研 究 業 績

○原著論文 (査読付学術雑誌)

第一著者

1. Fujimoto, Y., Chiba H., Shindo, K., Kitazima, J., Iwata, M. 2022. Reproductive ecology and adaptive host choice correlated with body size in an autumn-spawning bitterling *Acheilognathus typus*. *Journal of Fish Biology* 100: 1195-1204.

共著論文

1. 高橋佑亮・鈴木 透・嶋田哲郎. 印刷中. ドローンの音に対するガンカモ類の反応. 日本鳥学会誌.
2. 福田亘佑・藤本泰文. 2022. 伊豆沼・内沼で採捕されたナマズ *Silurus asotus* の黄変個体. 伊豆沼・内沼研究報告16: 97-104. DOI:https://doi.org/10.20745/izu.16.0_97.
3. 速水裕樹・藤本泰文. 2022. 伊豆沼で確認されたホテイアオイ *Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms と温暖化による定着の可能性. 伊豆沼・内沼研究報告16: 33-38.
4. 上田紘司・藤本泰文. 2022. 伊豆沼・内沼周辺の池における絶滅危惧種のオオセスジイトンボ *Paracercion plagiosum* (トンボ目: イトトンボ科) の季節消長, 繁殖期および生息環境. 昆虫 (ニューシリーズ) 25: 1-12.
5. Nagasawa, K., Asayama, T., Fujimoto, Y 2022. Redescription of *Argulus mongolianus* (Crustacea: Branchiura: Argulidae), an Ectoparasite of Freshwater Fishes in East Asia, with Its First Record from Japan. *Species Diversity* 27: 167-179.
6. Zhao, F., Katsunori Mizuno, Tabeta, S., Asayama, T., Hayami, H., Fujimoto, Y. Shimada T. 2022. New method of mussel survey by using high-resolution acoustic video camera-ARIS and deep learning. OCEANS 2022 - Chennai, Chennai, India, pp. 1-4.

○学会発表・シンポジウム等

1. 嶋田哲郎. 2022. 伊豆沼・内沼におけるオオクチバス防除活動にともなう魚食性水鳥の変化. 日本鳥学会2022年度大会, 網走.
2. 嶋田哲郎. 2022. 伊豆沼の鳥と魚たち. シナイモツゴ郷の会2022年度水辺の自然再生WEBシンポジウム・地域研修会. オンライン.

○委員会委員・非常勤講師など (主なもの)

(嶋田研究室長)

1. 希少野生動植物保存推進員 (環境省)
2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (ガンカモ類調査) 検討委員 (環境省)
3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員 (宮城県)
4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員 (宮城県)
5. 栗原市環境審議会副会長 (栗原市)
6. 栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会長 (栗原市)
7. 登米市環境審議会会長 (登米市)
8. 登米市生物多様性とめ戦略検討委員会副会長 (登米市)
9. 日本鳥学会副会長、評議員、2022年度大会実行委員長 (日本鳥学会)

(藤本主任研究員)

1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員(宮城県)
3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員(宮城県)
4. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会委員(栗原市)
5. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員(遠野市)
6. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員(環境省)
7. 日本魚類学会自然保護委員(日本魚類学会)
8. 流域環境保全ネットワーク副理事
9. 宮城大学非常勤講師

別記2【④自主事業の実施】

① 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、上半期に6回開催する予定としていたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止となった。

◇令和4年度伊豆沼・内沼自然体験講座

回数	テーマ	開催日	参加者数
第1回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	11月12日	20名
第2回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	11月27日	18名
第3回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	12月18日	22名
第4回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	1月15日	18名
	合計		78名

※ 予算内訳 収入 財団 計 29万円
支出 保険料、委託費 計 29万円
(経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

② 第32回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、写真展開催により伊豆沼・内沼の重要性と環境保全の大切さをアピールした。また、2月、3月に県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。(出品者65名、内入選者20名)

<第31回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)>

登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	令和4年	5月	1日～	5月27日
登米市市役所1階ロビー	令和4年	6月	1日～	6月29日
栗原市市役所1階ロビー	令和4年	7月	1日～	7月28日
JRくりこま高原駅オアシスセンター	令和4年	8月	1日～	8月31日
宮城県庁1階ロビー	令和5年	1月	13日～	1月27日

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円
支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 110万円

③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

美しい湖沼環境を保全するため、クリーンキャンペーン実行委員会と登米・栗原両市との共催により春分の日(3月21日)に第61回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの実施となった。

第61回 実施日：3月21日 参加者数：625名 ゴミの量：530kg

<クリーンキャンペーン実行委員会>

栗原市若柳自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、
迫川上流土地改良区、伊豆沼土地改良区、穴山土地改良区、
新田北部土地改良区、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、財団

※ 予算内訳 収入 財団 計 5万円
支出 保険料 印刷費 計 5万円

④ バス・バスターズの活動(ブラックバス駆除ボランティア)

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティアバス・バスターズの協力を得て、オオクチバスの駆除活動を2004年から行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの実施となった。

駆除作業：5月下旬～6月下旬 作業回数：4回 参加延べ人数：112名

⑤ 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東京大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。

また、伊豆沼・内沼研究報告16巻に10本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、予防対策を徹底しつつ、展示品を活用した恒常的な解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし対応した。

1 調査・検討会への参加状況

年	月	日	団 体 名
令和4年	4月	5日	ガン調査打合せ（オンライン）
	4月	5日	山形大学（横山教授）調査
	4月	19日	北里大学サンプリング調査（～20日）
	4月	22日	環境省打合せ
	5月	10日	登米市環境審議会
	5月	11日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会保護・保全部会
	5月	11日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会代表者合同会議
	5月	25日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会総会
	5月	26日	魚取沼保全対策モニタリング調査
	5月	29日	水生生物保全協会（斉藤氏）ため池調査
	6月	2日	ジオパーク学術研究等奨励事業研究助成審査会
	6月	5日	水生生物保全協会（斉藤氏）ため池調査
	6月	9日	宮城県自然保護課・環境対策課 実地調査
	6月	10日	東京大学（水野准教授）オンライン会議
	6月	12日	水生生物保全協会（斉藤氏）ため池調査
	6月	14日	北里大学（千葉准教授）調査（～18日）
	6月	15日	宮城大学学生調査
	6月	16日	東北地方環境事務所打合せ
	6月	16日	東京大学（水野准教授）調査
	6月	17日	県自然保護課自然公園担当者研修会
	6月	19日	水生生物保全協会（斉藤氏）ため池調査
	6月	21日	環境省ザリガニ対策会議（オンライン）
	6月	22日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ
	6月	23日	六角牧場風発ヒアリング
	6月	29日	大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会（オンライン）
	6月	30日	酪農学園大学（小川准教授）打合せ
	7月	1日	魚取沼調査
	7月	5日	津山ウグイ生息地調査・指導
	7月	7日	東北緑化自然再生打合せ（オンライン）
	7月	8日	東北緑化現地調査
	7月	12日	水生生物保全協会（斉藤氏）ため池調査

7月20日	自然再生事務局会議
7月21日	栗原市一般廃棄物処理施設整備基本構想検討委員会
7月26日	「遠野の景観」保存調査委員会
7月28日	栗駒山麓ジオパーク保全活動
7月28日	宮城県環境対策課現地調査
7月28日	自然再生学識者会議（オンライン）
8月4日	山形大学（横山教授）調査
8月8日	栗原市環境審議会
8月9日	宮城県自然環境保全審議会自然環境部会（オンライン）
8月10日	栗駒山麓ジオパーク保全保護部会（オンライン）
8月16日	宮城県環境対策課・国際航業現地調査
8月19日	「ブラックバスの規制と対策」（オンライン勉強会）
8月21日	東北学院大学学生調査
8月24日	国設鳥獣保護区更新に係る公聴会（環境省）
8月24日	栗駒山麓ジオパーク保全活動
8月30日	東京大学（海津准教授）ヒンメリロボット（～9月2日）
8月31日	宮城県希少動植物保護対策検討会
9月13日	栗原市建設課打合せ
9月15日	豊田合成東日本（株）打合せ
9月16日	関東学院大学（佐藤教授）学生調査
9月22日	東方地方環境事務所打合せ
9月30日	ジオパーク全国研修会打合せ（オンライン）
10月4日	東北農政局打合せ
10月4日	栗原市建設課打合せ
10月6日	栗駒山麓ジオパーク第3回保全活動
10月19日	栗原市自然環境等協議会
10月27日	東京大学（多部田教授）打合せ（オンライン）
10月27日	山形大学（横山教授）調査
10月28日	宮城県環境対策課打合せ
10月28日	モニタリングサイト1000会議（オンライン）
10月28日	栗原市環境審議会
11月1日	東北緑化打合せ
11月2日	環境省外来生物対策室打合せ
11月8日	栗原市田園観光課打合せ
11月9日	川崎せせらぎ公園視察
11月10日	東北農政局打合せ
11月11日	東北整備局（玉川ダム視察）
11月15日	東京大学（水野准教授）調査（～16日）
11月17日	栗駒山麓ジオパーク全国大会打合せ
11月18日	環境省東北地方環境事務所打合せ（オンライン）

	1月21日	日本ジオパークネットワーク研修会（～23日）
	1月22日	六角風発ヒヤリング
	1月25日	栗原市産業廃棄物検討会
	2月2日	生態系回復手法検討等ヒヤリング（オンライン）
	2月6日	酪農学園大学（小川准教授）調査（～9日）
	2月14日	宮城大学打合せ（オンライン）
	2月15日	モニタリング1000ガンカモ検討会（オンライン）
	2月15日	宮城県自然保護課打合せ
	2月16日	ガン国際シンポジウム打合せ（オンライン）
	2月21日	カモ捕獲調査（～25日）
	2月23日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ（オンライン）
	2月23日	自然再生沈水植物部会（オンライン）
令和5年	1月14日	種の保存法に基づく淡水魚類の保全の在り方検討会
	1月18日	宮城県生物多様性地域戦略推進会議
	1月19日	旧迫川二期環境配慮打合せ
	1月24日	ガン国際シンポジウム打合せ
	1月25日	第2回大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会
	1月26日	ザリガニ対策会議（オンライン）
	1月26日	栗駒山麓ジオパーク第2回保護保全部会
	1月28日	ガン国際シンポジウム（～29日）
	2月4日	伊豆沼・内沼自然再生協議会（オンライン）
	2月9日	県レッドリスト会議（オンライン）
	2月15日	北海道大学（山田講師）打合せ（オンライン）
	2月15日	宮城県東部地方振興事務所水産漁港部打合せ
	2月16日	東北地方ダム管理フォローアップ委員会
	2月21日	東京大学（水野准教授）調査（～22日）
	3月14日	山形大学（横山教授）打合せ（オンライン）
	3月15日	栗原市一般廃棄物処理施設整備基本構想検討委員会
	3月16日	栗原市第3回環境審議会
	3月17日	北海道大学（山田講師）調査
	3月23日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ
	3月28日	山形大学（横山教授）調査
	3月29日	栗駒山麓ジオパーク第2回専門部会代表者合同会議
	3月29日	栗駒山麓ジオパーク第3回保護保全部会

2 共同研究及び研究援助

- (1) 環境省東北地方環境事務所（鳥インフルエンザ対策）
- (2) 日本獣医生命科学大学（カモ類の追跡調査）
- (3) 岡山理科大学（ゼニタナゴに関する共同研究）
- (4) 北里大学（ゼニタナゴに関する共同研究）
- (5) 宮城大学（オオルリハムシ（昆虫）に関する共同研究）

3 出前講座の開催状況

開催日	団体名	テーマ	参加者数
7月3日	蓬田環境保全隊	沼の生き物たちについて	30名
11月16日	新田小学校	伊豆沼の環境について	22名

4 博物館学芸員実習の受け入れ

盛岡大学文学部4年生1名 8月30日～9月3日

5 企業による環境保全活動（社会貢献活動）

(1) トヨタ自動車東日本株式会社 9月24日 15名

(2) 豊田合成東日本株式会社 10月16日 50名

※ 予算内訳	収入	財団	計	200万円
	支出		計	152万円

☆ 自主事業収支

(単位：千円)

自主事業区分	収入	支出	収支
自然体験講座	290	290	0
フォトコンテスト	1,100	1,100	0
クリーンキャンペーン	50	50	0
調査研究・普及啓発	2,000	1,520	480
合計	3,440	2,960	480